

平成25年度 救護活動報告より

バレーボールで発生しやすい ケガについて

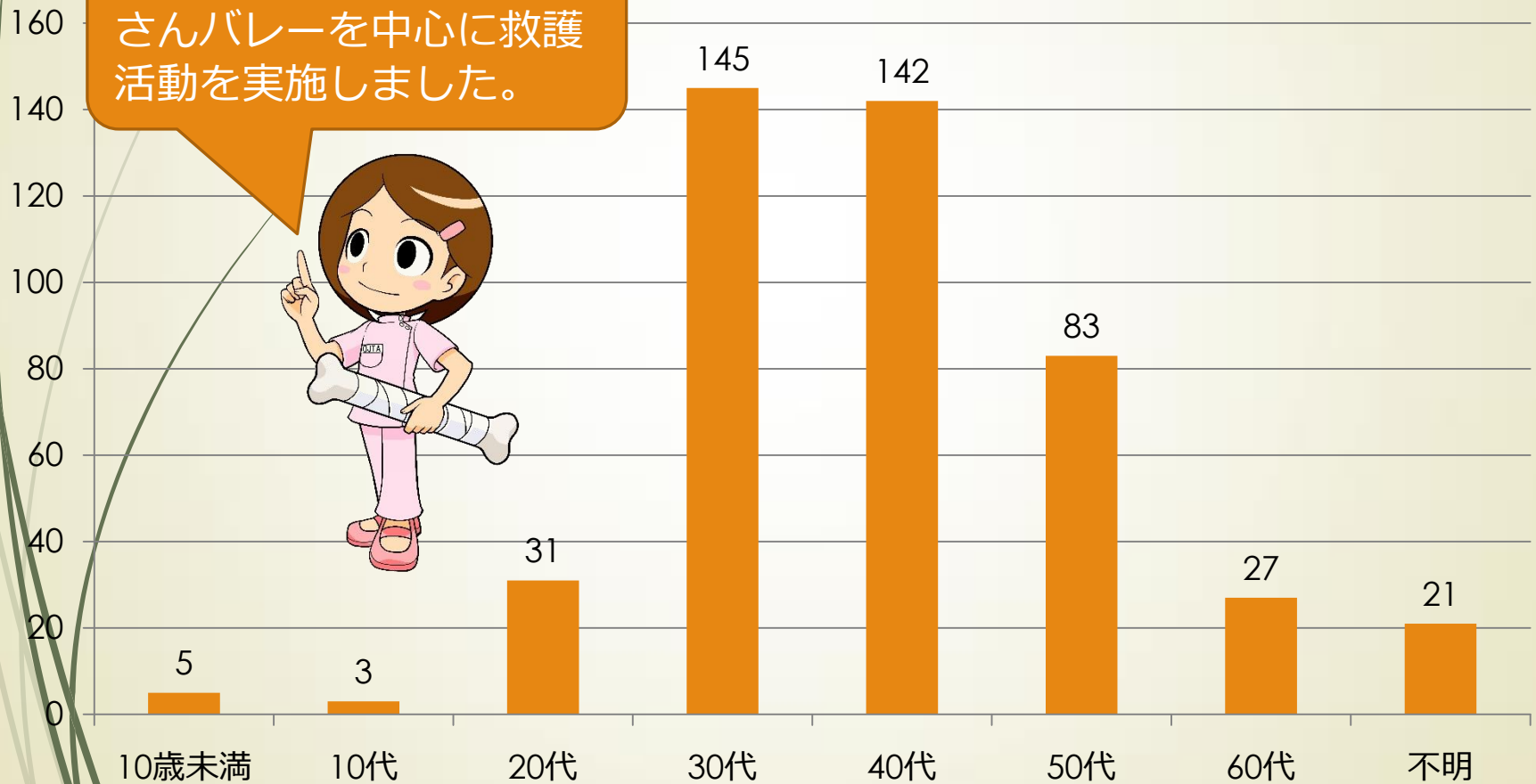


バレー年代

バレー年代

全77会場
総症例数 451例

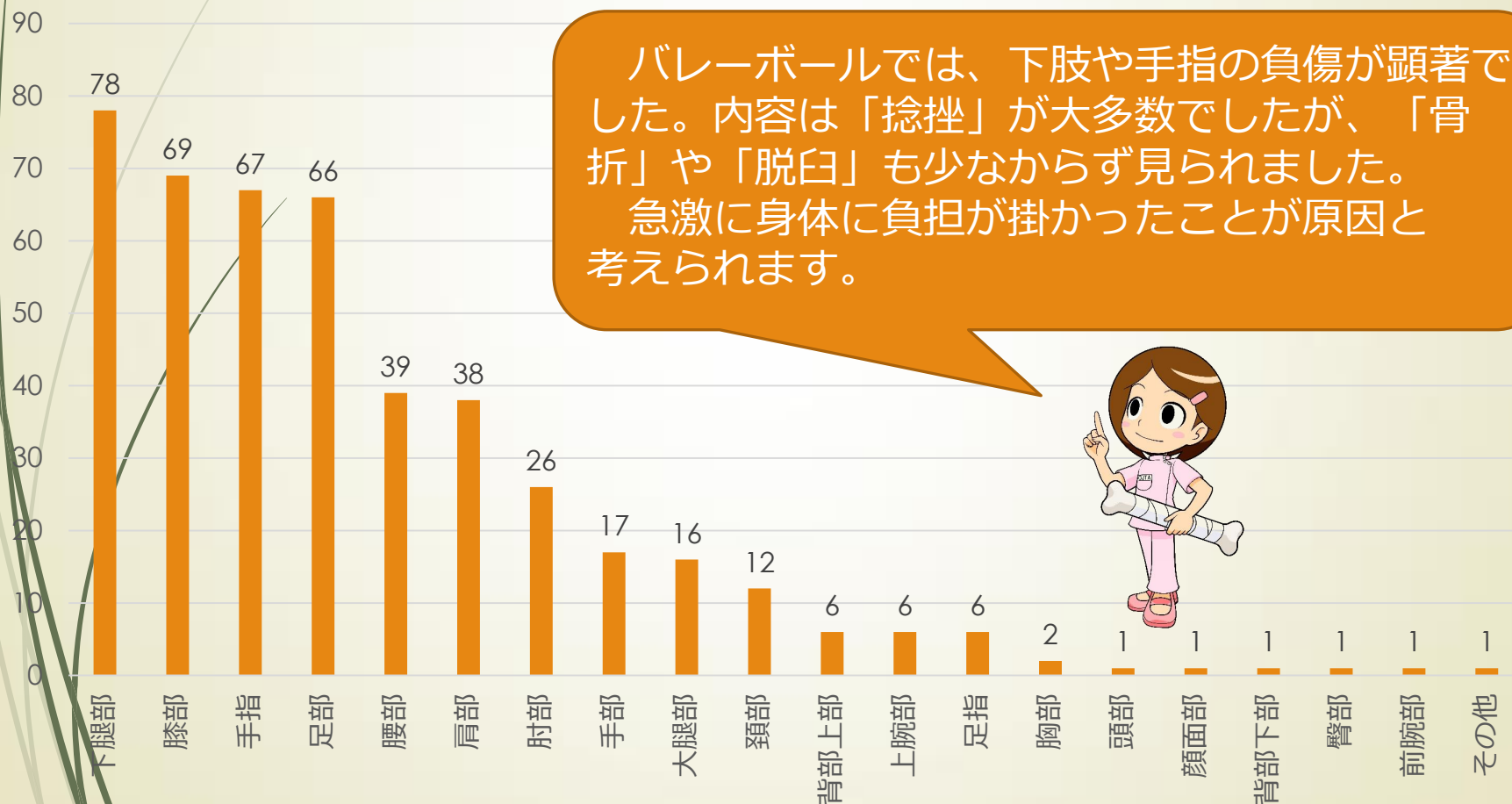
バレーボールでは、ママさんバレーを中心に救護活動を実施しました。



バレー 負傷部位 総数

バレー 負傷部位 総数

全77会場
総症例数 451例



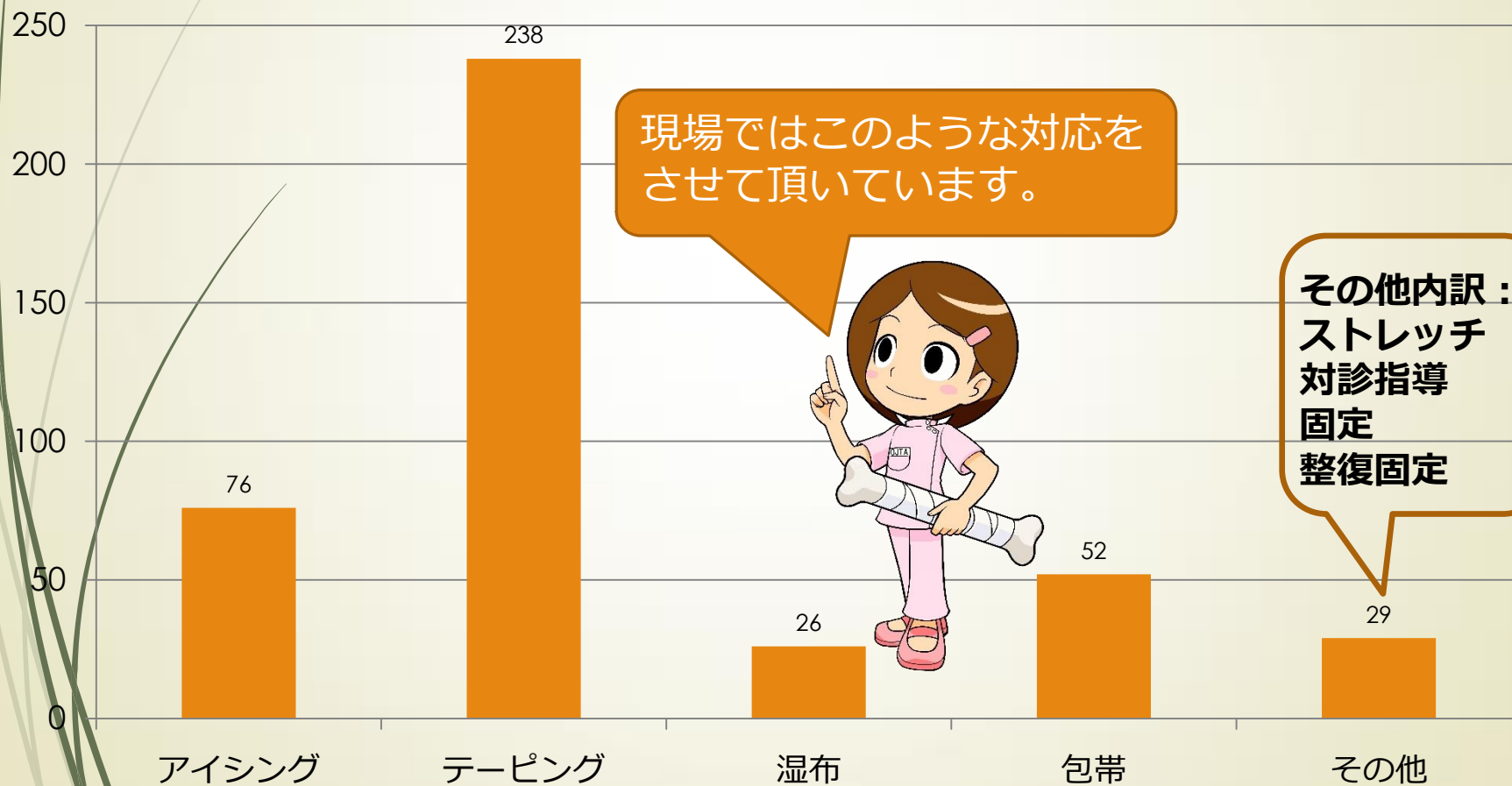
バレーボールでは、下肢や手指の負傷が顕著でした。内容は「捻挫」が大多数でしたが、「骨折」や「脱臼」も少なからず見られました。急激に身体に負担が掛かったことが原因と考えられます。



バレー 捻挫 施術内容

バレー 捻挫 施術内容

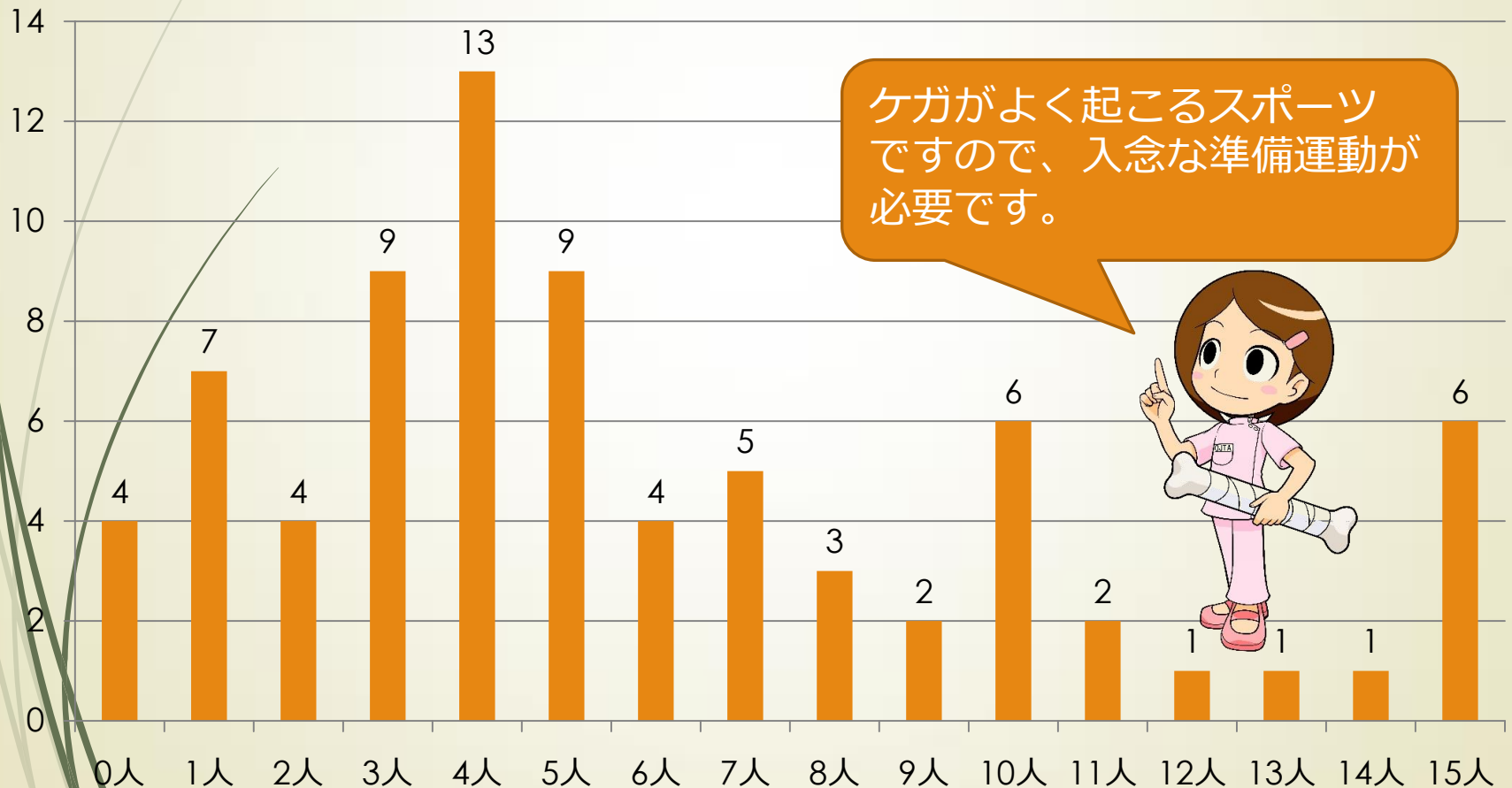
全278例



一会場あたり施術人数

一会場あたり施術人数

全77会場
総症例数 451例



ケガがよく起こるスポーツ
ですので、入念な準備運動が
必要です。





バレーボールでは、主にママさんバレーに出場される選手の救護を行いました。競技中は瞬発力を要するため、特に下肢への負担が大きく下腿部や足部を捻挫される方が顕著でした。これに加えボールをブロックするときに手指を負傷され施術を受ける方が多かったです。

中には骨折や脱臼をされる方もおり、専門的な知識や負傷内容の早急な判断を要する症例も少なからず見られました。

大きな力が身体の各部位に急激に加わるスポーツですので、事前に準備運動やストレッチなどの対策を行う事が非常に重要です。

しかし、競技中に怪我をしたときや、競技後に身体に違和感がある場合はできるだけ早めに救護ブースへお越しくださいね。

